



の四割が津波に呑み込まれ、一万人近くが犠牲になつたといわれます。その当時の徳之島での状況はどうだったのでしょうか。ご存じの方は、是非教えてください。

悲惨な報道の中で、ひときわ明るい報道もあります。建物が壊滅状態になつた釜石の小学校、仙台のほぼすべての保育園、仙台に襲われる状況がテレビで繰り返し写された仙台空港近くの海辺にあつた寝つきり老人だけを収容していた介護施設で、犠牲者がほぼゼロだったというものです。これらは、津波の襲来を想定して、日頃から避難訓練を実施しており、いち早く、全員が避難していたとのことです。

話は変わりますが、旧年十月始めにイスラエルを訪ねました。危険な国といわれ、おそれおそるでしたが、少なくとも表面的には明るく屈託のない国でした。パレスチナと国境を接するガザ地区にも行きましたが、各民家や保育園・小学校周辺に、ミサイル砲撃に備えたシェルターが設置されていて、日常生活の中での安全を守る緊張感が伺われました。

自然災害を意識した国造り、街作りが日本という豊かな国に住むための必須のことだと知らされたことでした。そのためには、各地域がそれぞれの自然と歴史を踏まえて、独自に自然との共生像を作つてゆく必要があるのではないかとおもった暮らしや産業のあり方にもつながつてゆく筈です。しっかりと「想定」の下に、地域発展のプランを作つてゆく。そこに、いささかの貢献をするといふ私どもの「夢」を乗せたいと思う次第です。

皆様の、ご健勝とご研鑽を心からお祈りします。

◆六月十九日、総会
徳之島花いづぱい運動（雪山氏）、物産販売活動計画（宮原氏）、観光・物産事業について提案（村岡氏）。報告事項として、井上脩士理事の奄美諸島ツアーレポート、市村康理事の省エネ実験の紹介、基調講演（島嶼化について）を横田副理事長から

◆四月二十三日、国土交通省特別地域振興官 安栖宏隆先生の講演
資料「奄美の現状と将来課題」を全会員に配布させてもらいました。時々読み返して下さるようお願いします。